

# シロイチモジヨトウ情報第1号

令和2年9月1日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

発生ほ場率が過去10年で最も高くなっています  
今後の発生状況に注意しましょう

## 1 形態及び発生生態

成虫は暗灰褐色、体長約12mmの蛾で、前翅の中央部に黄褐色の円形斑紋があります(図1)。卵は黄褐色、約0.5mmのまんじゅう型、卵塊で産卵され、表面は灰褐色の毛で覆われます。幼虫の体色は多様で、緑色から黒紺色まで個体差が大きく、老齢幼虫になると、腹部の側面の線が白く明瞭になり、気門線の腹縁部が桃色を呈し、体長約30mmとなります(図2)。

孵化後しばらくは集団で生息しますが、齢が進むにつれて次第に分散します。成虫は4月から11月頃に、年4~5回発生します。非常に広食性で、幼虫の寄生植物は50種以上に及びます。キャベツのほか、ダイズ、ハクサイ、ダイコン、ネギ、キュウリ、トマトなど、多くの野菜類や花き類で発生が見られます。



図1 シロイチモジヨトウ (成虫)



図2 シロイチモジヨトウ (幼虫)

## 2 ほ場における発生状況

8月下旬のキャベツほ場における寄生株率は0.56% (平年0.17%、前年0%) で、過去10年と比較して2番目に高い状況です。発生ほ場率は33% (平年3%、前年0%) で、過去10年と比較して最も高い状況です。

## 3 フェロモントラップにおける誘殺状況

田原市のキャベツほ場に設置したフェロモントラップにおける誘殺数は平年に比べ、やや多い状況で、豊橋市のキャベツほ場、ハクサイほ場に設置したフェロモントラップにおける誘殺数は平年並からやや少ない状況です(図3)。

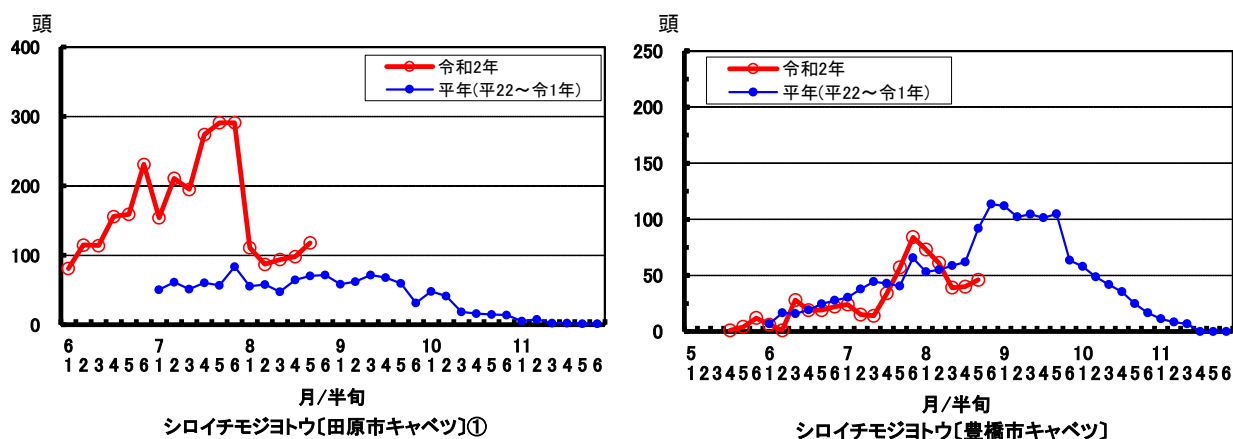


図3 フェロモントラップにおけるシロイチモジヨトウの誘殺状況

#### 4 今後の発生予測

名古屋地方気象台8月27日発表の1か月予報によると、向こう1か月の平均気温は高い見込みであり、**本虫の増殖に好適な気候が続くと考えられます。**

#### 5 防除対策

本虫は中齢期以降になると薬剤の効果が劣ることがあるので、ほ場での発生状況をよく観察し、表を参考に若齢期のうちに速やかに防除しましょう。薬剤感受性の低下を防ぐため、同一IRACコードの農薬を連用しないようにしましょう。

本虫は広食性で、雑草などにも寄生しているため、ほ場周辺の雑草を除去しましょう。

表 シロイチモジヨトウに対する主な防除薬剤

作物名	農薬の名称	使用時期	希釈倍数	使用回数	系統	IRACコード
キャベツ	コテツフロアブル	収穫前日まで	2000倍	2回以内	ピロール	13*
キャベツ はくさい	ヨーバルフロアブル	収穫前日まで	2500～ 5000倍	3回以内	ジアミド	28
野菜類	デルフィン顆粒水和剤	発生初期但し、 収穫前日まで	1000倍	-	BT	11A
野菜類 (はくさいを除く)	ゼンターリ顆粒水和剤	発生初期但し、 収穫前日まで	1000倍	-	BT	11A
だいず	プレオフロアブル	収穫7日前まで	1000～ 2000倍	2回以内	プロペニルオキ シフェニル	UN*

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細は、[https://www.jcpa.or.jp/labo/pdf/2020/mechanism\\_irac02.pdf](https://www.jcpa.or.jp/labo/pdf/2020/mechanism_irac02.pdf)を参照する。

薬剤散布の際は、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。